

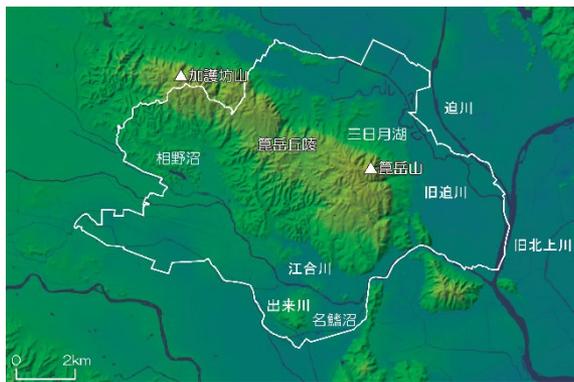
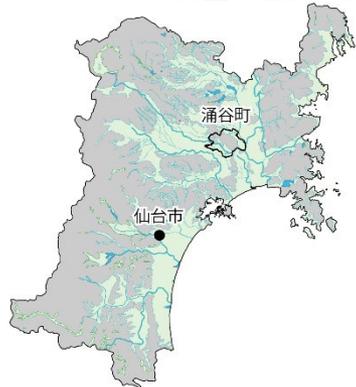
02 涌谷町文化財保存活用地域計画【宮城県】

【計画期間】 令和5～8年度（4年間）

【面積】 82.16km²

【人口】 約1.5万人

【関連計画等】 日本遺産「みちのくGOLD浪漫
—黄金の国ジパング、産金はじまりの地をたどる—」（R元年度）



歴史文化の特徴

（1）籠岳丘陵を中心とする里山の歴史文化

町の中央で東西に横たわる籠岳丘陵は、金鉱床や亜炭などを胚胎(はいたい)しながら、2回にわたる褶曲(しゅうきよく)活動により現在に至っている。これら地質資源と人々の出会い、特に天平21年(749)の黄金産出は、我が国に大きな影響を与えた。産金以後、山頂に籠峯寺が鎮座してからは地域を加護し安定をもたらす存在となり、「みちのく」の里山として認識されている。

（2）城下としての涌谷のまち文化

近世、涌谷伊達家が涌谷城に入城して以降は、武士住宅街、町人町、寺屋敷などが町割り整備され、城下町として機能、現在の涌谷町の中心市街地に発展した。現在の涌谷町の市街地の区画や水路は基本的にこの町割りから受け継がれたものであり、「涌谷城跡」を中心として点在する寺社の建造物や武士住宅、旧家に残されている古文書など、現在の涌谷町形成の礎となった歴史文化資源が数多く残されている。

（3）低地と共に暮らす人々の生活文化

籠岳丘陵をとりまく平野部では、北に旧追川、南に江合川が流れ、東端部で旧北上川に合流する。河川の流路に沿って発達した自然堤防、その周囲には広大な低湿地が形成されている。縄文時代から人々は、この自然環境がもたらす恩恵を享受してきたが、中世以降は、治水・水利事業を繰り返しながら低地を開発する努力が続けられ、現在は水田として広く耕作されている。

（4）町域全体の自然的特徴

（1）から（3）の歴史文化は地質・鉱物・地形・湖沼などの自然環境がもたらしたものであり、これらの歴史文化全体にかかる自然的特徴がある。

指定等文化財件数一覧（令和5年3月現在）

類型 \ 指定区分		国指定	県指定	町指定	国登録	合計	
有形文化財	建造物	0	3	9	0	12	
	美術 工芸品	絵画	0	0	0	0	0
		彫刻	0	0	0	0	0
		工芸品	0	0	1	0	1
		書跡典籍	0	0	0	0	0
		古文書	0	0	0	0	0
		考古資料	0	1	0	0	1
歴史資料	0	0	2	0	2		
無形文化財		0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	1	0	1	
	無形の民俗文化財	0	1	1	0	2	
記念物	遺跡	2	0	3	0	5	
	名勝地	0	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物	0	0	16	0	16	
文化的景観		0	0	—	—	0	
伝統的建造物群		0	0	—	—	0	
合計		2	5	33	0	40	

指定等文化財は、40件
未指定文化財は、526件把握

推進体制

	取組主体
町	教育委員会生涯学習課、教育委員会教育総務課、総務課、企画財政課、まちづくり推進課、農林振興課
関係施設	涌谷町立史料館、わくや万葉の里、追戸横穴歴史公園、涌谷町くがね創庫、涌谷町公民館、籠岳公民館、涌谷町立史料館収蔵庫
専門家	涌谷町文化財保護委員会、宮城県教育庁文化課、東北歴史博物館、多賀城調査研究所、宮城県図書館、東北大学、東北学院大学、東北工業大学、宮城学院女子大学、石巻専修大学
団体	学校、各地域自治体、歴史文化資源保存・活用団体、各伝承芸能保存団体、民間事業者、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会、大崎地域世界農業遺産推進協議会、涌谷町観光物産協会、遠田商工会
町民	所有者、個人、観光ガイド、文化財ボランティア、地域住民

【基本理念】 涌谷の宝を、知り、活かし、未来へ伝える

基本理念の方向性

歴史文化資源の保存や活用には、歴史文化資源の所有者や町民、民間団体など、地域ぐるみで取り組むことが重要ですが、そのためには、まず町民が地元の歴史文化資源を知ることが大切です。これによって、歴史文化資源を様々な取組みに活かすとともに、次世代へ継承することができます。

歴史文化資源の保存・活用

※町：涌谷町、専：専門家、団：団体、民：町民

歴史文化資源の保存・活用に関する課題

把握調査・普及啓発の課題

- 歴史文化資源の把握調査の不足
- 歴史文化資源の普及啓発と価値の共有の不足



※歴史文化資源が豊富にある麓峯寺

保存・活用の課題

- 適切な保存と整備の不足
- 防犯・防災対策の課題
- 活用の不足



※多くの活用が望まれる「佐々木家住宅」

土台づくりにかかる課題

- 保存・活用の土台づくりの不足

歴史文化資源の保存・活用に関する方針・取組

基本方針1 歴史文化資源を知り、分かち合う

- 方針(1) 把握の推進
 - ・継続的な把握
 - ・継続的な調査 など
- 方針(2) 普及啓発と価値の共有の推進
 - ・学校教育における学習機会の充実
 - ・町民へ向けた普及啓発 など

基本方針2 歴史文化資源を守り、まちづくりへ活かす

- 方針(3) 適切な保存と整備の推進
 - ・地域で活動する伝承芸能団体等への支援
 - ・保存施設の整備 など
- 方針(4) 防犯・防災対策の推進
 - ・文化財所有者等への防犯・防災・減災啓発活動
 - ・災害情報の公開 など
- 方針(5) 活用の推進
 - ・観光・イベントへの活用推進
 - ・広域連携の推進 など

基本方針3 歴史文化資源を伝える土台づくり

- 方針(6) 保存・活用の土台づくりの推進
 - ・町民や団体の担い手育成・支援・協力
 - ・文化財行政の体制強化 など

歴史文化資源の保存・活用に関する措置の一例

1 把握調査の実施

『涌谷町史』参考資料群や麓峯寺、美術工芸品などの把握調査の実施・内容更新する

- R5～8
- 町、専、団



46 町指定「佐々木家住宅」の利活用事業

町指定「佐々木家住宅」「佐々木家屋敷」の公開整備を行い、活用事業を推進する

- R5～8
- 町、専、団、民



57 歴史文化資源の保存・活用に関する体制の整備

町の情報発信部門と連携を強化し、歴史文化資源が身近に感じられる情報発信を行う

- R5～8
- 町



一定のテーマ・ストーリーにより紐づけた「関連文化財群」

涌谷町の関連文化財群

涌谷町の歴史文化の特徴を踏まえ、その価値や魅力を効果的に保存・活用するためには、各特徴に関係する様々な歴史文化資源を、指定・未指定にかかわらず一定のテーマ・ストーリーにより結びつけることで、個別の歴史文化資源はもとより歴史文化資源群が表す本質的価値や魅力の向上を図ることができる。涌谷町では歴史文化資源を点ではなく、線、ひいては面として有機的・多面的に保存・活用を図るため、一定のテーマ・ストーリーにより紐づけた関連文化財群を設定した。

歴史文化の特徴	番号	関連文化財群の名称 (ストーリー)	時代の流れと主な構成歴史文化資源 ※色の濃い部分は核となる時代					
			縄文時代以前・縄文・弥生・古墳時代	古代	中世	近世	近代	現代
(4) 町域全体の自然的特徴 歴史文化 (1) 麓岳丘陵を中心とする里山の文化 (2) 城下としての涌谷のまち (3) 低地と暮らしに暮らす人々の生活文化	1	多彩な地質・地形がもたらす豊かな自然 本町にある地質・鉱物・地形・湖沼などからもたらされる豊かな自然は、あらゆる歴史文化が育まれる礎となってきた。						
	2	産金と人々の縁(えにし) — 資源と人の出会い — 日本初の産金によって、みちのくの風土に根付いた“金”と人々の縁は、きらめく浪漫に満ち溢れている。						
	3	聖なる山を中心とする里山と人々の祈り — ののだけさま — 作神さまとして篤い信仰を集めてきた麓峯寺は、人々や社会の安寧を祈り続けている。						
	4	涌谷伊達家と町のはじまり — 奥州涌谷の城下町 — 中世に領地替えをされた涌谷伊達家の統治や城下町の賑わいが、涌谷の町の原型である。						
	5	低地を活かし拓く — 人々の営みと実り — 縄文海進によって、自然環境や人々の生活が移り変わり、低地部は新田開発の舞台となるなど、人々は常に自然環境と共に文化を育んできた。						

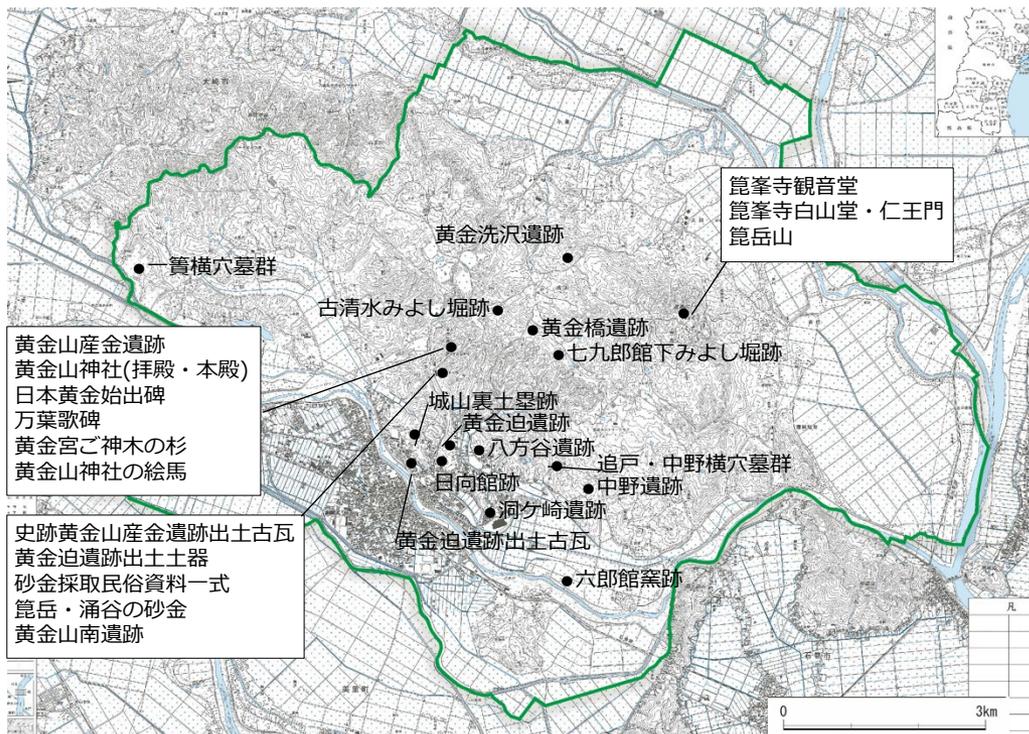
概要

8世紀前半、涌谷町域は律令政府の領域に組み込まれ、坂東の国々からの移民で成立した陸奥国最北辺の「小田郡」に所属していた。小田郡には陸奥国6軍団の1つ「小田軍団」がおかれた最北辺を守る拠点地域であったことが知られている。城柵官衙遺跡として日向館跡や城山裏土塁跡、墓域として追戸・中野横穴墓群、生産遺跡として長根窯跡群などが分布している。

天平21年(749)春、陸奥国は小田郡から黄金が産出したことを報告し、陸奥国守百済王敬福は自ら黄金900両(約13kg)を携えて献上。聖武天皇はこれを日本初の産金として神仏双方に深く慶祝し、大伴家持はその喜びを最北の万葉歌として詠んだ。国史跡黄金山産金遺跡は、神仏双方を慶祝した仏堂跡と神社で構成される国家の聖地である。籠岳丘陵から産出する金は、地層の中に砂金が堆積する二次鉱床を起源とする砂金に限定されるため、当時の人々も1粒ずつ砂金を採集したと考えられる。砂金は、東大寺・大仏の鍍金(金メッキ)材料に用い、その後は遣唐使や唐への留学僧の資金、国家の貿易決済の費用となった。やがて、砂金は平泉の黄金文化を支えるものとなっていった。

このように「産金と人々の縁」は、金という鉱物資源と人々の出会いや関わりから生み出された遺跡・遺物、民俗文化財、動物・植物・地質鉱物などを「縁」として構成する関連文化財群である。

主な構成歴史文化資源



関連文化財群に関する課題

ストーリーの時代背景やストーリーから生み出された歴史文化についてはまだまだ認知されていない。天平ろまん館も、新型コロナウイルス感染症などの影響を受け、入館者数が伸び悩んでいる。

関連文化財群に関する方針

東大寺サミットや日本遺産「みちのくGOLD浪漫」といった既存で実施してきた事業を推進し、関連文化財群のストーリーを広く知ってもらう事業を推進する。併せて、公開施設などでストーリーを体験する取り組みを推し進め、地域の活性化につなげていく。

関連文化財群に関する主な措置

- 39 日本遺産「みちのくGOLD浪漫」関連事業
 - R5~8 ■町、専、団、民
- 41 東大寺サミットへの参画、支援
 - R5~8 ■町、団
- 43-1 公開施設における展示会の開催
 - R5~8 ■町、団、民
- 44-1 追戸横穴歴史公園の開園
 - R5~8 ■町、団



日本遺産のシティセールス



みちのくの金関連の企画展